

## 健康日本 21 地方計画の有効な実施を実現する保健活動のあり方

松下光子 坪内美奈 米増直美 森仁実 大井靖子 宮島ひとみ 北山三津子  
岩村龍子 大川眞智子 (大学) 佐竹芳子 田中喜代美 寺村恵美子 堀田美奈  
橋本香織 山本佳子 渡邊智香 (海津市・健康課)

### I. これまでの経緯

市では、平成 19 年度に健康日本 21 地方計画「か  
いづ健康づくりプラン」を策定した。計画策定に  
あたっては、市民健康会議の開催などにより市民  
と協働して進めてきた。平成 19 年度は、その取  
り組みを共同研究としても取り上げ、市のスタッ  
フと大学教員とともに考えてきた。

### II. 今年度の目的

平成 20 年度から策定した計画が本格的に動き  
出している。計画を推進する取り組みを通して、  
策定した計画の有効な実施をめざした保健活動  
のあり方を検討する。

### III. 方法

策定した計画に基づき保健活動を展開し、その  
取り組みを通して保健活動のあり方を検討する。

健康課のなかでの活動体制：健康づくりプラン  
の担当者と各保健事業の担当者が協力して活動  
を進めている。計画については、課内会議で共有  
し、プランに基づいて、各担当が事業を展開して  
きた。各事業についての評価を年度末に実施し、  
次年度へとつなげる。

外部との協働：健康づくり推進協議会を 7 月に  
開催し、計画の進捗状況を報告し意見を得た。2  
月末にも今年度の取り組みを報告する予定であ  
る。また、計画策定の際に実施した市民健康会議  
を 1 月末に再度開催し計画の進捗状況を報告し、  
今後の進め方について意見を得た。

大学教員は、健康づくり推進協議会、市民健康  
会議での検討方法、今年度の取り組み経過につ  
いて健康課のメンバーとともに話し合いを行った。

倫理的配慮は、健康課の活動そのものであるた  
め、部長、課長、課長補佐含め課の職員間で共  
同研究への取り組み、報告について共有し了解  
の下で進めている。

### IV. 結果

#### 1. 20 年度に実施した計画の項目ごとの主な取 り組み

##### 1) 栄養・食生活

健診事後教室や栄養教室の実施、食育に関する  
PR 活動を行った。食生活改善協議会への研修を  
行い、会員から地域への普及を目指した。

##### 2) 身体活動・運動

健診事後教室を実施した。また、事後教室卒業  
者への継続支援、喜楽めき歩好会(月に 1 回、保  
健センターに集合しウォーキング)を実施した。

##### 3) 休養・こころ

精神保健に関する関係機関と毎月ケア会議を  
実施した。地域で連携を深めるきっかけづくりと  
して民生委員と母子保健推進員との交流会を開  
催、また、母子手帳交付時にアンケートをとり妊  
娠時の心の状態を確認した。

##### 4) たばこ

市の施設内での禁煙が実施された。庁舎内のた  
ばこの自販機が撤去され、公用車内は禁煙とな  
った。また、各自治会施設での禁煙の張り紙を  
作成し希望自治会へ無料配布した。

##### 5) アルコール

市報でアルコールについて情報提供した。母子  
手帳交付時に妊娠時の飲酒について確認した。

##### 6) 歯

8020 歯科健診の受診勧奨、20 年 4 月から妊婦  
歯科健診を実施した。

##### 7) 健診

各種健診を実施した。実施期間を長く設定し  
たり、土日や時間外の対応日を設けたり、より受  
診しやすい体制をつくった。

#### 2. 計画を市民に知ってもらうための取り組み

プランの周知のために、健康づくりプランのダ  
イジェスト版を全世帯に配布した。また、健康展  
での周知を行った。健康展は、健康づくりに関  
する関係団体と連携し、平成 20 年 11 月 1 日(土)・  
2 日(日)に実施した。来場者数は、2,344 人であ  
った。健康展で実施したアンケート結果では、  
健康づくりプランについて知っていた 30.3%、  
健康展でプランについて知った 51.4%であった。

さらに、市報に“今月のチャレンジ”コーナー  
をつくり健康づくり情報を提供した。

#### 3. 20 年度の取り組みの評価として行ったこと

「平成 20 年度に行政の取り組むこと」と決め

た項目が実施できたかを確認し、現在の課題は何かをアセスメントした。

また、計画策定時に市民と協働して計画をつくるために開催した公募委員との市民健康会議を再度実施し、行政の取り組みを報告し、個人や地域で「今年度取り組むことができたこと、次年度取り組みたいこと」について意見交換を行った。

委員との意見交換から、住民の方は、自分なりに健康づくりに取り組んでいること、そして、それを言葉にすることでさらに意識化できること、また、各地域に根ざした価値観や資源があるので、それをうまく健康づくりにつなげることも必要であることや各個人も地域の中に役割を持っており、それがその人自身、またそこにすむ住民の健康に大きく影響していることに気づいた。そして、地域の中での健康づくりには、人と人とのつながりがキーワードだと感じたが、最近では、昔に比べ、交流が希薄になりつつある地域もあり、地域の中での関係に変化が出てきている。それらの気づきから、各個人が暮らす生活（地域）の中に、プランを発展させていくための課題やヒントがあると考えた。プランを発展させるには、個人や各地域の状況を把握し、どんな特性がありどんな課題があるのかを分析し、地域を巻き込んだ活動が必要だと考えた。

また、年度末には、健康づくり推進協議会においても、これまでの経過を報告し、意見交換を行う予定である。

#### **4. 活動の実践方法として改善できたこと・変化したこと**

市民の声を活かして、現状や目標を確認しながら実施できた。また、他の部署との意見交換をもつことで関連性を確認しながら、次につなげることができた。

#### **5. 共同研究を実施しての感想・意見**

地域の特性や潜在している課題を確認しながら実行していくことの必要性を再確認できた。また、地区を把握するにあたっては、日々の業務の中で確認できることもあると感じたので、各担当がその視点を持って取り組めるよう、課内でも再確認したいと思った。また、日々の業務が、健康づくりプランのどの部分にあたるのかなど、常にプランに立ち戻って確認しながら進めていくことも大切だと感じた。

かかわった教員としては、ともに話し合いをすることで健康づくりプランを実際に実現して行く方法について、共同研究を通してじっくりと考えることができた。行政における看護活動や保健

計画、活動評価に関する学生教育に活かしていきたい。

#### **6. 共同研究として実施したことの意義**

担当者は、時に、ある部分に注目して視野が狭くなったり、どのように進めていくべきか迷うこともあった。そんな時に、全体を見て軌道修正のための助言や、他市町村の状況を教えていただけることで、視野を広げ前に進むことができた。

かかわった教員としては、共同研究として実施したことで、関係するスタッフが集まって健康づくりプランについてじっくり考える場を設けることができたのではないかと考えている。健康づくりプランは、中間評価が4年後、プランは9年後までの期間である。共同研究としては2年目、健康づくりプランの実施は、まだ1年目であるので、今後の進め方についてはさらに検討が必要な段階であると考えている。

### **V. 共同研究報告と討論の会における討議内容**

#### **1. 健康づくりプランの進め方について**

1) 「住民と協働して健康づくりプランを進めることが課題である。どうやって進めているのかを聞きたい。」とディスカッションに参加していた他地域の保健師から質問があった。健康づくりプラン作成からこれまでの取り組みについて、以下のように追加説明がされた。

健康づくりプランの作成にあたって、住民の方と協力してつくってきた。公募と行政からの声かけで15名ほどの市民の方に集まっていたいただき、市民健康会議を開催して、プランの骨子を作成した。実施初年度に再度集まっていたいただいて、それぞれの方のプランに対する取り組みの現状についてうかがい、プランの見直しについて考えたいと思った。実施して話し合ったことで、保健師の予想以上に住民の方がそれぞれに健康づくりに取り組んでおられるという地域の現状がわかった。健康づくりプランをさらに進めるにあたって、そのような地域住民の活動の実態をもっと把握し、それらを活かして健康づくりプランを実現していきたいと考えている。

これまでの住民のグループ等への働きかけとしては、健康教室後の運動自主グループの方たちに健康づくりプランを伝えたり、保健関係でかかわっている団体の会議などの場で健康づくりプランを伝えたりということを行っている。プランを知ってもらうことも健康に関心をもってもらうきっかけになるのではないかと考えている。

2) ディスカッションに参加していた他の2地域

の保健師から住民との協働や健康づくりプランの進め方の紹介があった。

1つめの地域の取り組みは、以下のような内容であった。その地域では、健康日本21地方計画としてだけでなく、市の保健福祉計画として年代ごとの幅広い内容で目標を立てて取り組んでいる。計画のダイジェスト版は、増刷して配布もした。計画策定の段階から保健、福祉分野の関係職員がチームを作って協議を重ね、活動している。計画を進める職員のチームがある。また、日々の事業等の活動においては、つねに「保健福祉計画のどこに位置づけられた活動なのか」と計画に立ち返り考えて活動を行っている。各保健事業・活動には、それぞれ法律の根拠があるが、それと同時に市の健康福祉計画からの意味づけ(この目標があるから、これを行っている)を考えながら活動を行っている。つねにそのように確認して各事業を進めている。それらの各事業をまとめた内容を健康づくり推進会議などにも実施状況として報告している。また、それぞれの事業に関係している市民に意見を聞きながら、進めている。

もう一つの地域では、健康づくりプランを進めるにあたり、活動の土台となる住民が健康づくりに取り組むための地域の活動組織を作りたいと考えて取り組んできた、食、運動、心の健康づくりに関する活動グループを作ったが、その活動が広がらない、地域の組織作りを行うという当初の計画で進めるには困難な状況に直面しているという現状の紹介があった。

3) 健康づくりプランと次世代育成支援計画、老人保健福祉計画との関連はどのようになっているのか、との質問が他地域の保健師からあった。

市全体の総合計画の中で、次世代、健康づくりなど枝分かれしている構造。健康課の職員がほとんどの計画に関わっているという面では、意見交換等実施できるが、関連を考えるというところまではいっていないとの説明がされた。

## 2. 住民との協働について

1) 住民の活動に何を期待するか、主体的な活動をどう発展させるか等、住民と協働した健康づくりプランの進め方について、当該地域、他の地域の取り組みとして以下のような意見が出された。

まず、当該地域の取り組みの現状と今後に向けての意見は、以下のとおりである。

健康教室後の自主グループについては、各自主グループを集めての交流会なども行っている。交流会を通して、他のグループの活動を知ってもらい、自分たちの活動に生かしてもらおうこと、活動

を継続するための支援として実施している。自主グループは、継続することも課題なので、継続を支援することは大事だと思う。また、自主グループの参加者が友人を誘ってきてくれることを期待している。行政が行っているさまざまな教室や特定保健指導などの場をもっと参加のハードルが低いものにするのもよいのではないかと、今日話し合っていて思った。健康づくりがしたい、生活改善したいと思っている方、取り組みがうまく行かない状態にある方などが、参加しやすい行政の事業があるとよいのではないかと。教室参加者などが一緒に行こうと誘えるような形になるとよいのでは。特定保健指導は、気持ちに働きかけることが中心になってきており、入りやすくなっていると思う。

他2地域の取り組みの現状と意見として、まず、1つめの地域は、以下のとおりである。

既存の組織と手をつないで活動をしていくことも考える必要があると思っている。また、保健師が地区活動を行い、地区に入って行って住民に働きかけていくことも考えている。全戸訪問に取り組んでおり、その中で、健康に関心の高い住民等を把握できているので、それらの人々への働きかけを行うなど、全戸訪問で捉えた情報も活かせる良いと考えている。

もう一つの地域からは、以下のような意見があった。

住民の自主グループという点では、健康教室の実施中から自主グループの結成に向けて、働きかけている。教室開始時は、運動するだけでも始めての方たちであるが、教室が終わる頃に近づくと、教室が終わったあとも続けられるようにしよう、と声をかけ、自主活動になるようにつなげていく。教室終了時には、今後はいつ、どこに集まるかを決めておく。保健センターに集まるようにして、来た人たちに、がんばっているね、などと必ず声をかけるようにすると活動は継続されていく。住民の自主活動につなげ、何年間も継続して活動しているグループがある。保健師は、場所の提供や、実施時の声かけを行う、という後方からのサポートを行っている。活動を行う中で、開始段階から、住民の主体的な活動に進んでいくように考えて、そのような方向に持っていつている。なぜかといえば、健康福祉計画における目標がそれを目指しているから。また、高齢者が地域で集まるサロンは、民生委員等の地区役員などに声をかけて、地域で開催を呼びかけ、相談にのりながらサロンの開催地区を増やしてきている。それらの活動は、

すべて保健福祉プランで計画されている活動であり、プランに沿った活動である。そのことも常に保健師自身が確認できている。その為、活動の中で地域の実態を把握しつつ、活動を発展させていっている。

#### **VI. 共同研究報告と討論の会における討議を終えての感想と今後に向けて**

各事業と健康づくりプランの関連を市の保健師全員が意識して日々の活動が行えるような共通認識を作ることができるとよいのではないか。

各事業を通して、地域住民の実態も捉えつつ、活動を展開していくことができるようになるとうい。保健師全員でそのような認識を持てるような話し合いの場を設けられるとうい。今年度中に、そのための話し合いを行い、次年度の具体的な取り組みにつながれるとうい。

住民の主体的な活動について、保健師側から仕掛けて行くことも大事だと感じた。住民の力を信じて、それを伸ばし、後方から支えていくということも大切だと感じた。